アンケート　【本票】

当アンケートは、貨物輸送における環境負荷低減に係る事業の検討にのみ活用し、事業者ごとの回答を公表することは一切ございません。何卒、御協力のほどお願いします。（所要時間：５分～１０分程度）

【回答方法】 (1)回答フォーム： 貨物輸送における環境負荷低減に係るアンケート
(2)電子メール　： SO000628@section.metro.tokyo.jp
(3) FAX：03-5388-1382

↓こちらからも回答いただけます

【担当】 東京都　環境局　環境改善部　自動車環境課
地域環境交通担当　電話 03－5388－3525

【締切】 令和８年１１月１８日（水）

１　基本情報

Q１　貴社の基本情報（回答日時点）

事業者名		電　話	
所　　属		担当者名（名字）	

Q２　車両台数（貨物自動車・軽含む）

回答：

A　10 台未満
B　10～29 台
C　30～49 台
D　50～99 台
E　100～199 台
F　200～499 台
G　500 台以上

Q３　**主な**保有車種　（複数回答可）

回答：

A　軽貨物
B　小型（最大積載量２t 以下）
C　中型（最大積載量２t 超～６.５t 以下）
D　大型（最大積載量６.５t 超）

Q４　**主な**事業　（複数回答可）

回答：

A　一般貨物運送（企業間輸送）
B　宅配
C　引越
D　倉庫業
E　その他（　　）

Q５　**主な**配送品目　（複数回答可）

回答：

A　農水産品　（穀物、野菜・果物、その他農産物、畜産品、水産品）
B　林産品　（木材、薪炭、樹脂類、その他林産品）
C　鉱産品　（石炭、金属鉱、非金属鉱物（建設用)、非金属鉱物（工業用））
D　金属機械工業品　（鉄鋼、非鉄金属、金属製品、機械）
E　化学工業品　（セメント製品、セメント製品、レンガ、石灰、その他の窯業品、石油製品、石炭製品、化学薬品、化学肥料、その他の化学工業品）
F　軽工業品(紙・パルプ、繊維工業品、食料工業品、日用品、その他の製造工業品）
G　雑工業品　（書籍・印刷物・新聞、衣類、文具・玩具、ゴム製品、木製品、娯楽用品、雑貨、家具、その他製造工業品）
H　特種品　（金属くず、動植物性飼肥料、その他くずもの、廃棄物、輸送用容器、取合わせ品）
I　自動車便特別積合せ貨物
J　その他（　　）

Q６　**駐車場**の**主な**保有形態

回答：

A　自社所有
B　賃貸
C　A、B 共にあるが、多くが A である
D　A、B 共にあるが、多くが B である
E　A、B 共に半数程度

Q7　自社**以外**の荷役作業を行う施設（複数回答可）

回答：

A　発荷主の事業所（工場、出荷センター、店舗等）
B　着荷主の事業所(百貨店や SC 等の大型商業施設､卸売市場等の複数の運送事業者が納品する施設)
C　着荷主の事業所（店舗、工場等）
D　トラックターミナル
E　倉庫事業者の倉庫
F　共同配送拠点（複数の運送事業者の荷物を混載することを目的とした施設）
G　他の事業者の物流センター
H　荷捌き可能な市中の駐車場

Q８　**主な**配送形態について　（複数回答可）

回答：

A　ルート配送（配送先固定、巡回配送）
B　チャーター便（スポット配送、貸切）
C　宅配

Q９　**主な**受注形態について

回答：

A　荷主より直接受注
B　他の貨物輸送事業者より受注
C　A、B 共にあるが、多くが A である
D　A、B 共にあるが、多くが B である
E　A、B 共に半数程度

Q10（**Ｑ９でＣ、Ｄ、Ｅと回答した場合**）配送形態ごとの受注形態の A：B 比率をご回答ください

配送形態	A(荷主より直接受注)の割合	B(他の貨物輸送事業者より受注)の割合
記入例	3	7
ルート配送（配送先固定、巡回配送）		
チャーター便（スポット配送、貸切）		
宅配		

２　ＺＥＶについて

Q11　**これまでの**貴社における貨物自動車（軽含む）の ZEV※導入状況

※ZEV とは、EV（電気自動車）・PHEV（プラグインハイブリッド自動車）・FCV（水素自動車）を指します。ハイブリッド車は含みません。

回答：

A　導入済み
B　かつて保有していたが、今は保有していない
C　導入していない

→　Ａ　または　Ｂ　と回答した場合、　Q12 以降　と　アンケート【ZEV 票】　にご回答ください
Ｃ　と回答した場合、　Q12 以降　ご回答ください

Q12　**今後の**貴社における貨物自動車（軽含む）の ZEV 導入予定

（既に導入済み場合も追加で導入予定があれば A とご回答ください）

回答：

A　導入することが決まっている
B　検討中
C　導入予定なし

→　Ａ　または　Ｂ　と回答した場合、　Q13 以降　と　アンケート【ZEV 票】　にご回答ください
Ｃ　と回答した場合、　Q13 以降　ご回答ください

Q13　荷主から「ZEV 配送」の要請の有無

回答：

A　継続的にある
B　時々ある
C　ほとんどない
D　全くない

Q14　**自社で EV** を導入する場合の**必須**条件（複数回答可）

回答：

A　航続距離が伸びる（充電環境が充実しても、途中で充電が必要な限りは難しい）
B　用途に合う車両が販売される
C　車両価格がディーゼル車と同程度になる（補助の拡充）
D　燃料コストを比較した上で優位である
E　壊れにくい・故障時のコストが安い
F　自社以外で充電が確実にできる環境
G　自社に充電設備の設置が可能である
H　荷主や株主からの評価、受注機会の拡大に直結する（コストやリスクを多少は許容できる）
I　その他（　　）

Q15　**自社で FCV** を導入する場合の**必須**条件（複数回答可）

A　用途に合う車両が販売される
B　車両価格がディーゼル車と同程度になる（補助の拡充）
C　燃料コストを比較した上で優位である
D　壊れにくい・故障時のコストが安い
E　水素ステーションの利便性の向上
F　荷主や株主からの評価、受注機会の拡大に直結する（コストやリスクを多少は許容できる）
G　その他（　　）

Q16　**貨物輸送業界で** ZEV 導入を進めるために有効と思う新たな支援（上位２つまで）

※ZEV 車両の補助、充電設備の補助は実施中のため、対象外

回答：１位　　２位

A　共同利用可能な充電器の設置（公共用ではなく、限られた事業者で共同利用するもの）
B　ZEV 配送のニーズのある荷主とのマッチング支援
C　ZEV の特性を踏まえた配送計画の作成支援
D　貨物輸送における ZEV 導入事例の紹介（導入時の課題解決、導入後の変化等）
E　その他（　　）

３　貨物輸送のＤＸ化、ＡＩ活用について

Q17　輸配送の最適化・効率化に係るデジタル化推進状況

回答：

A　積極的に推進している　→　Q18　以降ご回答ください
B　一部で推進している　→　Q18　以降ご回答ください
C　検討中　→　Q22　以降ご回答ください
D　実施していない　→　Q22　以降ご回答ください

（Q17 でＡ、Ｂと回答した場合）

Q18　導入済のデジタルツール（複数回答可）

回答：

A　配車システム
B　運行管理システム
C　動態管理・車両管理システム
D　その他（　　）

（Q17 でＡ、Ｂと回答した場合）

Q19　導入済みのデジタルツールのうち、AI システムの有無

回答：

A　導入している　→　Q20　以降ご回答ください
B　試験的に導入している　→　Q20　以降ご回答ください
C　検討中　→　Q21　以降ご回答ください
D　導入していない　→　Q21　以降ご回答ください

（Q19 でＡ、Ｂと回答した場合）

Q20　AI を活用しているシステム（複数回答可）

回答：

A　配車システム
B　運行管理システム
C　動態管理・車両管理システム
D　その他（　　）

（Q17 でＡ、Ｂと回答した場合）

Q21　導入済みのデジタルツールによる効果（複数回答可）

回答：

A　配車効率向上
B　輸送コスト削減
C　人件費削減
D　ペーパーレス化
E　売上向上
F　特に効果なし

Q22　DX、AI 活用推進上の課題（複数回答可）

回答：

A　社内の推進体制不足
B　現場の理解不足
C　必要なデータの整備（収集、電子化、分析）が不十分
D　導入に適した業務が見つからない
E　受注の方法が電話や FAX であること
F　荷主や元請け事業者からの納品条件や配送条件（企業間の協力・合意等の難しさ）
G　コストに見合ったメリットが得られるか不透明
H　個人情報漏洩リスクや情報セキュリティ上の懸念

Q23　DX 化、AI 活用の課題への助言の機会として有効な支援（複数回答可）

回答：

A　アドバイザー派遣
B　セミナーや研修の開催
C　導入事例の紹介
D　荷主団体等への働きかけ
E　その他（　　）

4　東京都貨物輸送評価制度について

Q24　東京都貨物輸送評価制度について

回答：

A　取得したことがある　→　Q25　以降ご回答ください

B　取得したことはないが、制度は知っている

C　取得したことがなく、制度も知らない

D　取得したことがあるか不明だが、制度は知っている

E　取得したことがあるか不明であり、制度も知らない

} Q26　以降ご回答ください

制度の詳細はこちら https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/vehicle/sgw/nenpi-hyoka

（Q24 でＡと回答した場合）

Q25　東京都貨物輸送評価制度を取得したことにより得られたメリット（複数回答可）

回答：

A　荷主や株主等へ環境配慮をアピールし、実際に受注や事業拡大に繋がった

B　荷主や株主等へ環境配慮をアピールすることで、自社のイメージアップに繋がっている

C　EV・FCV トラックの買い替え補助※1 に申請できた（今後申請予定も含む）

D　荷主の運送経費の補助※2 に繋がった（今後申請予定も含む）

E　公共調達で入札可能な案件が増えた

F　その他（　　）

※1　詳細はこちら　https://www.tokyo-co2down.jp/subsidy/ev-bus-truck/

※2　詳細はこちら　https://www.tokyo-co2down.jp/subsidy/transportation/

Q26　貨物輸送評価制度に関する意見（自由記述）

5　自動車環境管理計画書制度について

Q27　自動車※の使用台数（都内事業所が複数ある場合はその合計台数）

※貨物車以外の**社用乗用車等も含めた全車両**

回答：

A　30 台以上

B　30 台未満

Q28　自動車環境管理計画書制度について

回答：

A　計画書及び実績報告書を提出している
B　計画書及び実績報告書を提出していないが、制度は知っている
C　計画書及び実績報告書を提出しておらず、制度も知らない

制度の詳細はこちら　https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/vehicle/sgw/newplan/newplan

Q29　自動車環境管理計画書制度に関する意見（自由記述）

６　その他

Q30　今後（3～5年程度）で重点的に取り組みたい分野（複数回答可）

回答：

A　人材確保
B　働き方改革
C　DX、AI 活用
D　エコドライブの推進
E　環境性能の高い車両の導入
F　再エネ電気の購入
G　太陽光パネル・蓄電池等の再エネ機器の導入
H　その他（　　）

Q31　貨物輸送における環境負荷低減に関する意見（自由記入）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

Q11 で　A または　B と回答した場合、
または
Q12 で　A または　B と回答した場合、
お手数ですが、アンケート【ZEV 票】　もご回答ください